

町長ヒアリング結果報告

1. 町長ヒアリングの目的

芦屋町第6次総合振興計画を策定するにあたり、町長の策定に向けた思いや将来像の検討に向け盛り込みたい要素、重点的に取り組むべき事項などを確認する。

2. 実施概要

- | | |
|----------|--|
| (1) 実施日時 | 令和2年2月14日(金) 11:00~12:30 |
| (2) 出席者 | 回答者 : 波多野町長
オブザーバー : 中西副町長
質問者 : ランドブレイン株式会社 山田、吉山
事務局 : 池上課長、本郷係長、福原 |
| (3) 実施方法 | 対面インタビューで実施 |

3. 実施報告

(1) 第6次芦屋町総合振興計画の策定に向けた町長の思い

事項	詳細、取り組み状況等
総合振興計画・地方創生・マニフェストが一体となった町政運営	<ul style="list-style-type: none"> マニフェストは第5次総合振興計画の体系に沿って構成している。「住民とともに進めるまちづくり」から「計画の実現に向けて」の8項目である。 地方創生における「まち」「ひと」「しごと」において、最も重要なのは「ひと」である。ただし、今から人口を増やすというのは至難の業なので、できるだけ人口を減らさない取り組みを進めたい。そして、「ひと」を増やすために重要なことは、「まち」の魅力を引き出すことである。
「海」「港」を中心とした芦屋町の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> 海が好き、きれいな風景のまちに住みたい、という人は一定程度いる。近隣市町の人なら必ず来たことがある、あしや花火大会や海水浴、釣り等、芦屋町の海辺のイベントやアクティビティを磨き、ニーズがマッチしている人に更に来てもらえるようにしたい。 芦屋港は県の物流港であるが、福岡県内の港湾における取扱貨物量は0.07%と非常に低い。レジャー港化により、夏だけでなく年間を通して楽しめる芦屋町を体現し、「また来たい」「住みたい」と思ってもらえる場をつくっていききたい。
居住地としての積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 若い人には学校教育のレベルが、居住地を選択する上で重要かと思う。ICTやエアコン等の教育環境の整備、学力向上には重点的に取り組んでいる。 駅がないため、公共交通の利便性は課題だといわれている。しかし、遠賀郡の他の3町も、駅近くに住んでいる人はごくわずか。一方で、芦屋町内を運行するバスは、折尾駅までは30分ほどなので、便利ともいえるのではないかと思う。 住民からの要望にはできる限り対応し、今後は外にPRする時にも強みとして打ち出せるよう、取り組みを強化していく。
目指す姿を見失わないまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 地方創生など、自治体間の競争がし烈になるような潮流となっているが、芦屋町が目指す姿を見失わずにまちづくりを進めていく。

(2) 第6次芦屋町総合振興計画における芦屋町の将来像の検討に向け、盛り込みたい要素

事項	詳細、取り組み状況等
海	<ul style="list-style-type: none"> 遠賀川の西側には砂浜が広がり、東側には岩場が広がる。ほかにはない海の景色であり、また採れる魚種も東西で異なる。 芦屋町の海の魅力は、色々な視点から語ることができる。しかし、そこで終わらずに、また遊びに来たい・住みたいと思ってもらうことが重要である。 芦屋港は釣り文化振興モデル港（全国で13ヶ所、九州で3ヶ所）に指定されている。アクアシアンで商工会青年部が開催するファミリーフィッシングは、釣った魚をその場でさばいて食べることもできるので、「釣りのまち」としての周知も広がっていると思う。
食	<ul style="list-style-type: none"> 海産物の中でも、鯖とイカをPRしているが、町内で食べられるところが少ないのが課題である。 縁があり、長野県松本市で外販活動を行っている。このように外にPRする活動を継続していくためにも、その仕組みとPRできる商品開発が必要である。

<p>芦屋釜</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表千家宗家（家元）に芦屋釜の里で製作した芦屋釜を寄贈したところ、大変喜ばれた。そして、宗家に寄贈した芦屋釜と同じ釜を芦屋町で製作し、それに家元自身が箱書きをしましょうという提案を頂いた。実際に製作して箱書きを頂き、平成 28 年度にお披露目を行った。 ・長野県松本市の茶道関係者より、市内で 2,000 人規模の茶会を行っているが、芦屋釜を茶席に用いてはどうかとの提案があった。そのような機会を得て、芦屋釜の文化的価値がきちんと伝わるようにしていきたい。 ・表千家や裏千家等の茶人も、芦屋釜の里には多数来訪されている。また、芦屋釜が度々掲載される各流派の会報誌（同門・淡交タイムス等）や機関誌（茶道雑誌・淡交等）は、全国の茶人に届けられ読まれている。芦屋町は、芦屋釜を町外へのPRに多いに活用している。
------------	--

(3) 第6次芦屋町総合振興計画で重点的に取り組むべき事項

<p>事項</p>	<p>詳細、取り組み状況等</p>
<p>ひとの育成</p>	<p>【住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業、自治区、住民活動団体など、様々なところで後継者不足やリーダー不足が生じている。 ・婦人会は「元気な女性たち」の象徴のような団体だったので、なくなったことは町としても厳しい出来事であった。しかし、婦人会を含め多くの住民グループは、行政が活動に介入できないため仕方がないところもある。 ・思いを持った人たちが集い、グループになり、取り組みができるとうい。人が元気になることで、まちが活性化する、という姿が望ましい。 <p>【職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の約 55%が町外在住であり、芦屋町出身の若手職員の中には、自治区名と場所がわからない者もいる。職員自身が芦屋町の住民やその暮らしを知り、住民参画における職員の役割を明確にする必要がある。 ・新しい取り組みを職員から提案してもらいたい。そのためには、自分の課だけではできないのでほかの課と連携するなど、必要な力を外から取り入れることを意識させなければならない。
<p>学校教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育成の一環で、学力向上につながられるかどうか鍵である。 ・千代田区や広島県を筆頭とした取り組みのように、独自色のある教育が必要である。 ・特に英語教育に力を入れたいので、文科省のカリキュラム通りだけでなく、芦屋町ならではのカリキュラムを作れるとうい。
<p>情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・砂像展を実施しているのは、九州内では芦屋町と鹿児島県南さつま市の2ヶ所と珍しい取り組みであるため、マスコミ取材を呼び込み、交流人口の増加をねらいたい。
<p>公的サービスの効率化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携中枢都市構想は国としても重要な取り組みである。芦屋町は下水道を北九州市と連携する交渉を進めている。公的サービスを効率化させ支出を減らし、住民の生活をより良いものとするビジョンを実現しなければならない。